

□ 商店街イベントの実情と切実なニーズ

目黒のさんま祭り 名物イベントが中止に



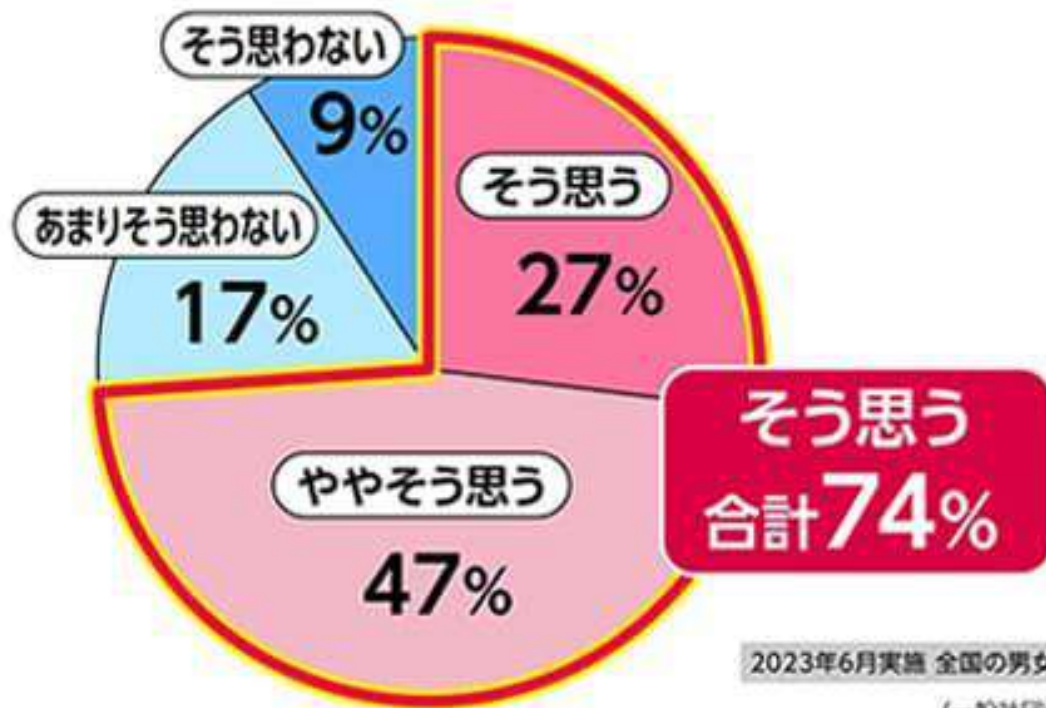
- 24年続いてきたイベント
- 7000匹が無料で振る舞われ、来場者はおよそ3万人
- 新型コロナウイルスの感染拡大でイベント中止
- **運営メンバーの高齢化**
- もう一度イベントを立ち上げる気力は、残されていませんでした。

入間川七夕まつり 花火大会が中止に



- 関東三大七夕まつりの一つ
- 七夕の飾りの大半は住民、関係者の手作り
- 花火中止は中止に
- 警備の人的費の高騰のため

Q.祭りはなくなっていくものだと思いますか



2023年6月実施 全国の男女800名を対象

(一般社団法人マツリズム)

イベント産業規模推計

2023 年 イベント産業規模推計

2024 年 6 月 14 日

一般社団法人 日本イベント産業振興協会

1

- **コロナ禍の影響**: 外出や飲食の自粛により商店街全体が大きな打撃を受け、多くの商店街イベントが中止や自粛を余儀なくされた。
- **徐々に回復**: 2023年にはイベントの再開が進んだものの、規模縮小が目立ち、依然として2019年の市場規模の15.4%にとどまる。
- **質的な変化**: 従来のグルメイベントの代わりにデジタルスタンプラリーなど新たな形式が取り入れられるなど、商店街イベントの内容に質的な変化が見られる。

出典元: 一般社団法人 日本イベント産業振興協会

- 人手
- イベント実施のノウハウ
- 技術（デジタルなど）

商店街イベントが抱える主な課題(人手)

- **人手不足**：イベント運営や商店街全体を支える人材の高齢化が深刻で、後継者不足が問題視されています。
- **後継者不足**：若い世代が商店街運営や店舗経営に携わることが少なく、新しいアイデアやエネルギーが不足。
- **運営の属人化**：特定の人物に依存する形が強まり、その人が退任するとノウハウの継承が滞る。
- **多様な役割の担い手不足**：PR、スポンサー交渉、当日の進行管理など、役割分担が不明確で、担当者が過負荷に陥る。

商店街イベントが抱える主な課題(技術、ノウハウ)

- **運営方式の変化**：リアルイベントの制限から、オンラインやデジタル要素を取り入れた新形式が模索されていますが、これに対応するノウハウの不足が課題。
- **企画力**：オンラインとリアルの融合を図るための効果的な企画やデザインを考案するスキルが不足。
- **プロモーションの難航**：SNSやウェブ広告の活用が不十分で、ターゲット層へのリーチが限定的。